



委員からの感想

- 民生委員・児童委員の活動は大変とされていますが「ありがとう」と言われるとやりがいを感じます。
- 人とのふれあいの中で、自分も成長できます。



民生委員・児童委員は、民生委員法および児童福祉法に基づき、厚生労働大臣から委嘱される非常勤特別職の地方公務員で、地域福祉活動を支えるボランティアです。現在、担当する地域を持つ「区域担当委員」58人と、主に子どもや子育て支援を担当する「主任児童委員」4人で活動しています。

5月12日は「民生委員・児童委員の日」です

問健康福祉課地域福祉係 ☎079-435-0311

ご存知ですか？

民生委員・児童委員の役割

①地域のつなぎ役

子育てや介護など生活上の様々な相談に寄り添い、必要に応じて、行政をはじめ適切な支援やサービスへつなぎます。

②見守り

子どもから高齢者まで幅広い世代に対し、友愛訪問や日常生活での声かけなどを通じて、見守りを行っています。

③地域福祉活動

学校・園の行事や地域のイベントなどに参加し、住民と交流を深めています。

民生委員・児童委員には守秘義務があり、相談内容の秘密は必ず守られますので、安心してご相談ください。

民生委員・児童委員は、日々の活動を通じて孤独・孤立対策に取り組んでいます。

まちづくりアドバイザー報告会を開催しました

毎年行政職員向けにまちづくりアドバイザーの活動報告会を開催しています。今回はその様子をお知らせします。

播磨町では2020年からまちづくりアドバイザーを配置しています。毎年1年間の活動状況について行政職員向けの報告会を実施しています。例えば、播磨町で起きている変化やまちづくりにつながる兆しについて話したり、町民の皆さんからいただいた意見などを職員に伝えていきます。令和7年度の報告会では、土山駅北側のまちづくりの進捗や町内で増えている様々な居場所の話、自治会活動の現状などについて話題提供しました。職員からは「町内でこんなに活動があることを知らなかった」とや「地域にでていくことの大切さに気づいた」といった感想や意見がありました。この報告会では播磨町以外のまちがどのようなまち



▲報告会の様子

【まちづくりアドバイザーとは】 播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズに、より細かく対応するため、2020年度より「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援します。

まちづくりアドバイザーがお届けする
まちアド通信
協働推進課住民協働係
☎0799-435-2364



さんかけさん

3×3でちょうどいい! だからできる 地域のつながり

孤独・孤立に寄り添う光の妖精 ヒカリノ

問健康福祉課地域福祉係 ☎079-435-0311

5月は孤独・孤立対策強化月間です。
播磨町では「誰ひとり取り残されないまち」をめざして、「つながり」をキーワードに孤独・孤立対策を推進しています。



孤独・孤立 官民連携プラットフォーム

内閣府孤独・孤立強化月間



誰かとゆるやかにつながる

内閣府が行った調査によると、孤独であると感じることが「ある」と答えた人は4割という結果が出ており、決して他人事ではありません。誰かとゆるやかにつながるだけでこころが軽くなるかもしれません。播磨町には、様々な居場所があります。居場所マップを各コミセン等においていますので、ふらっと立ち寄ってみてください。

「播磨町孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」でつながる

令和7年4月に「地域のつながり」を大切に行っている団体の輪である「播磨町孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を設置しました。地域で活動をしている団体や、民間企業、福祉関係の事業所、近隣の精神科病院など、様々な分野から120団体（令和8年4月時点）に参画いただいています。

プラットフォームでの研修会や情報交換会を通じて、顔の見える関係を作り、みんなで『つながり』について考えていきます。



町ホームページ 孤独孤立対策

転入者が地域とつながる 『わたしのオススメの場所マップ』



播磨町はファミリー層の転入が多い特徴があります。そこで、令和7年度は兵庫県立大学人間環境学部の学生と「転入者の孤独・孤立の予防」をテーマに取り組みました。大学生の提案から、転入者に地域のことを知ってもらう取り組みとして、播磨町のオススメの場所に住民がマッピングをする「わたしのオススメの場所マップ」を作成しました。オススメの場所なので「この公園の遊具が楽しい」や「ここからの夕日がきれい」というものが多くありますが、子どもたちの意見の中には「館長が優しい」「町長がフレンドリー」「先生にお世話になった」など、オススメの場所の理由が「人」にあるものもあり、播磨町の「人とのつながり」の温かさや大切さが伝わってきました。

マップは5月14日（木）から18日（月）まで、土山駅南交流スペース（きつずなホール）に掲示していますので、ご覧ください。

さんかけさん
「3×3でちょうどいい」とは、播磨町の東西と南北の距離がそれぞれおよそ3kmで、面積が約9km²とコンパクトであることから、「住みやすく、ちょうどいい町」という意味のキャッチコピーです。
問はりまタウンプロモーション委員会(企画課内) ☎079-435-0356